



第36回 全日本中学生水の作文コンクール  
和歌山県入賞作品集

表紙の写真『**丹生の滝**』（和歌山県ホームページ フォトライブラリより）

丹生川の支流にあり落差約25m、丹生神社縁の幽すい境で、昔は雨乞の祈願をしたり、滝に打たれて水垢離の行をする者もいたといわれ、今も訪れる人々を幽玄の世界へと誘ってくれます。

## あ い さ つ

水は生命の源であり、また、田畑を潤し、社会・文化の反映を支え、大きな恵みをもたらしてくれます。しかしながら、近年、地球温暖化に伴う気候変動、産業構造の変化などの様々な要因により、土砂災害や渇水が頻発しています。

このような状況のもと、本年三月に水循環基本法が成立し、水を国民共有の財産と位置づけるとともに、国民に対して健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるため、八月一日が水の日と定められ、様々な関連行事が行われる予定となっています。

和歌山県としても、限りある貴重な水資源を未来へ引き継ぐため、次世代を担う中学生を対象とし、日常生活での体験や両親、先生から学び聞いた話などをもとに、今一度水を見つめる啓発活動として、昭和五十四年度から「全日本中学生水の作文コンクール」を実施しております。

今回は、県内から六六〇編の応募をいただきました。「水について考える」というテーマにふさわしく、きれいな水を育む森林の大切さ、断水生活を通して感じた水のありがたさ、自然の中で人間のあり方など、いつもは忘れがちな水の大切さについて表現された作品がたくさんありました。

このたび、入賞作品十八編を作文集にまとめましたので、ご一読いただき、家庭や学校において、限りある資源である「水」について、関心を高め理解をより深めていただくことを願っています。

最後に、本コンクールに応募された中学生の皆さんと、ご担当いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

平成二十六年八月五日

和歌山県企画部長 野田寛芳

もくじ

優秀賞

森林の大切さ

和歌山県立向陽中学校

二年

石川 英恵

・  
・  
・  
1

水のありがたさ

和歌山県立田辺中学校

二年

坂上 舞香

・  
・  
・  
3

生きるための水

近畿大学附属和歌山中学校

三年

田中 利佳

・  
・  
・  
5

入選

水の大切さ

和歌山信愛中学校

二年

秋月 智尋

・  
・  
・  
7

大切な資源 「水」

近畿大学附属和歌山中学校

一年

東 茉那美

・  
・  
・  
8

水不足と仮想水

和歌山県立向陽中学校

二年

井口 遼平

・  
・  
・  
9

水との共生

和歌山県立向陽中学校

二年

川端 佑衣里

・  
・  
・  
1 0

一滴を守れる世界に

和歌山県立向陽中学校

二年

後藤 詩子

・  
・  
・  
1 1

命をつなぐ水

和歌山県立向陽中学校

二年

高橋 悠泉

・  
・  
・  
1 2

“自然” という名のエンジン

和歌山県立向陽中学校

二年

長田 糸織

・  
・  
・  
1 3

奇跡の一滴

田辺市立新庄中学校

三年

濱本 法子

・  
・  
・  
1 4

和歌川について考える

近畿大学附属和歌山中学校

一年

松山 那央子

・  
・  
・  
1 5

同じものでも違う価値

紀美野町立美里中学校

二年

森下 真悠子

・  
・  
・  
1 6

佳作

水のありがたさを感じて

和歌山県立田辺中学校

一年

井口 絢可里

・  
・  
・  
1 7

水のありがたさ

那智勝浦町立宇久井中学校

二年

川上 朱璃

・  
・  
・  
1 8

一人一人が意識する

和歌山県立向陽中学校

二年

川島 千鶴

・  
・  
・  
1 9

水とともに生きる

紀美野町立美里中学校

三年

岸本 和佳

・  
・  
・  
2 0

水道と水

近畿大学附属和歌山中学校

三年

南 碧乃

・  
・  
・  
2 1

掲載順序は五十音順です。）

優 秀 賞

## 森林の大切さ

和歌山県立向陽中学校 2年

いしかわ はなえ  
石川 英恵

最終的には、透明ですき通ったような水になって米のとき汁独特のにおいも、とれていったのです。

そこで私は、自然にある何気ないものでも、自然の中にある水をきれいにするのに、大きく影響しているのだなあ、と感じました。

また、二年生の四月にフィールドワークに行ったときに、里山を流れる用水路がありました。それは、コンクリートできていて、少しにこった水が流れていました。そして、現地で里山のこを案内してくださった先生は、

前までは、この用水路もコンクリートじゃなく、藻も生えていたんです。しかしコンクリートになり藻がなくなった今では、汚い水がそのまま流れていって、この用水路の水もだんだんと汚くなってきているんです。」

と、おっしゃっていました。

やはり、この話からも分かるように、自然の中にあるものは、水をきれいにするのに、大切な役割を果たしているのです。

しかし、今世界では、アマゾン川流域では道路や農場などを建設する開発によって、多くの森林が伐採されていたりするなど、たくさん地域で森林伐採が進んでいます。日本も、自国の森林を伐採しないかわりに、他国の森林を伐採し、木材を、作ったり

私は、なぜ山にある小川を流れる水はきれいなのだろう」と、ふと疑問に思い、中学一年生の夏休みに、ろ過装置を手作りして、汚い水をきれいにする、という実験をしました。

その実験では、木炭、砂利、腐葉土、小石を使ってペットボトルのろ過装置を作りました。そして、自然にある材料を使うだけで、汚い水はきれいにできるのか」というテーマで、にこった米のとき汁をろ過していきました。

実験では、米のとき汁をろ過する回数を重ねることに、白くにごっていた水が、だんだんと透明になっていきました。そして、

しています。

森林は、土をきれいにしてくれます。さらに、その土を通る水もきれいにしてくれるので、森林伐採が進んでしまうと、自然の中にある水は、どんどん汚くなっていってしまうのです。

私は、森林伐採防止のために、どんなことができるのか、と考えてみました。森林を伐採するということは、木を切り、木材を作っているということになります。ですから、紙をむだ使いしないことや、使い捨ても割り箸ではなく、何回も使える箸を使用すること、古新聞や古雑誌などはきちんと回収して、リサイクルすること、などが浮かびあがってきました。また、インターネットで調べてみると、成長の早いユーカリを植樹したり、森林を増やす運動に参加すること」という方法も書いてありました。

私たちは日頃、たくさんきれいな水を使っています。普段食べている野菜を育てるにあたっても、きれいな水が必要です。ヒトも動物もきれいな水を毎日飲まなくては生きていけません。

このように、私たちにはきれいな水が必要です。しかし、そんなきれいな水を育んでくれている森林を、今私たちは伐採したりしてしまっているのです。ですから、日々私たちにできる何気ないところから、森林のために考えて行動することが大切なのだと思います。

## 優 秀 賞

# 水のありがたさ

和歌山県立田辺中学校 2年

さかうえ まいか  
坂上 舞香

ザーザー。」

シャワー栓の所から、蛇口を全開にした時のような水量の音が聞こえた。尋常な音ではなかった。

「シャワー栓閉めてみよか。」

父がそう言って、シャワー栓のカバーを外した瞬間、ものすごい勢いで噴水のように水が飛んだ。

「うわあ。」

母と姉と私は、後ろに下がりながら叫んだ。父は、まともに水を浴び、声も出なかった。私たちは急いで風呂場のドアを閉めた。父を残して。

濡れながらもどうか、そのカバーを元に戻した父は言った。

「元栓閉めるしかないな。」

すると母は、バケツ・洗面器・やかんにそれぞれ水を入れた。それから、父は外の元栓を閉めた。と、同時に家中の水は出なくなった。断水生活の始まりだ。

お父さん、早よ来て。水がもれてる。」  
普段、のんびり、ゆっくりして、ゴキブリが出て来ても慌てず、まして大声など上げない姉が、その時ばかりは、明らかに動揺している声を出していた。

その声に驚いて、もうすでに布団の中にいた私は飛び起きた。同じように感じたのか、父と母も姉の声のする風呂場に行った。

朝になり、まず一番困ったのがトイレだ。昨夜用意したバケツの水で流し、手は、洗面器の水を傾けて洗わなくてはいけなかった。また、やかんの水をコップに入れて、歯みがきをした。洗顔は、姉にそばでやかんの水を少しずつ私の手に注いでもらい、済ませた。断水が、こんなにも大変だということを知らされた。

昼前に業者さんが来て、修理してくれた。こうして、私たちの断水生活は終わった。実際の断水時間は四、五時間だったが、とても長く感じ、不便だった。改めて、必要な場所で、必要な分の水が蛇口から出てくることのありがたさを痛感した。でも、この断水生活で、コップ一杯の水で歯みがきができることがわかり、いつも必要以上の水を使っていることに気づいた。

そこで、私はインターネットで調べることにした。一日に使われる生活用水として、一人あたり三〇〇リットルもの水を使っていることがわかった。私は、大量の水を消費していることに驚いた。そして、水を三〇秒間流しっぱなしにして歯みがきをすると、約六リットルの水を使うが、コップにくめば、約〇・六リットルの水で済む。一回の歯みがきにつき、約五・五リットル節水できるのだ。

このように、ちょっとした心がけで、大きな節水につながる。今回の断水生活を体験した私は、節水を心がけ、貴重な資源の水を大切に使いたいと思う。

## 優 秀 賞

# 生きるための水

近畿大学附属和歌山中学校 三年

たなか りか  
田中 利佳

分かります。雨が降らなければ森林もありません。木は枯れ、砂漠化の一途です。そうすると当然、森をすみかにしている動物も生きられないでしょう。もちろん海や川の魚だっていません。食料面だけから考えても、植物や動物、水まで失った人間が生きることは無理です。まあ地球の大部分を覆っている海がなくなるとしたら深く考えなくても、あ、人類が生き残れるわけがないなというくらい想像がきます。私達にとって、水は生きる糧というよりは自体を形作るものと言えるかもしれせん。

ある日、妹が質問をしてきました。  
水がなくなったらどうなるの？」  
水が飲めなくなる。食べ物も水分がなくなって。パサパサ。お風呂にも入れない。また、人間が作っている作物だってもちろん育たない。頭に瞬時に浮かんだのはこのようなことでした。  
妹に説明すると、じゃあ何が残ってる？」  
と言われました。はっとしました。  
考えてみると、水がどれだけ私達の生活にかかせないものかが

しかし失念してはならないのは、他の生物も同じで水なしでは生きられないことです。かつて、人は動物の一員として他の生物との共存はあたりまえでした。しかし発展と同時に人間は、人以外の命を顧みることがなくなっているのではないのでしょうか。一昔前、人間の乱獲で絶滅した生物は少なくありません。近年保護は見直されていますが、上手く人が自然と共存できていれば「保護」は必要なはずなのです。人間が原因で生態系が崩れているのですから。また、同じ一つの命ですが虫を殺すことも何とも思わない人も多いでしょう。私もそうです。小さいころからの環境で形作られた人対他の命の大小の差の固定観念は恐ろしいもので、生命に平等に与えられているはずの、命の大切さを見えなくしてしまいます。

そんな人間の観念がはっきり見えるのは、汚染や公害でしょう。大気の汚染もですが、水の汚染はもっと残酷に感じます。一瞬で命を大量に奪うことがあるからです。

例えば、四大公害の水俣病。化学工業の廃液中の有機水銀によって汚染された海水、その魚貝類を摂食したため、多くの人が障害が残ったり死亡したりした事件です。もちろん、人々が多大な被害を受けたとして大事になりました。しかし、人間の命を前に隠れてはいますが、魚貝類のほうも直接多くの影響を受けているのです。人間の行動によって。また、私達があたりまえに流している、油や洗剤で汚れた水も、そのまま川に流したりすれば簡単に魚を死なせてしまう力があるのです。もし私が魚だったら人間を恨むでしょう。魚は、与えられた現実の中で必死にいきようとすしかないのですが。

生物は皆、自然の中で水を糧として生きています。全ての生き物はそれぞれに関わり合っており、人間はそのほんの一部にすぎないので。自然から離れて、人間は生きられませんか。当然、自然に守られていることを忘れて、支配できるなどという思い込みをしても手に負えるはずがないでしょう。生態系をかき回し、やがて私達自身の身を滅ぼすことになるだけのような気がします。

自然の産物である水。人間は、一時の私欲だけで理不尽に他の

生物の命である美しい水を奪ってきました。人間は自然を大切にしなければならぬ。大切にするといいのはどういふことか？

自然を支配しているのではなく、守っている立場でもなく、自然に「生かされている」ということ。決して自分だけで生きていくのではない、他の生物と支えあって人類があるのだ、ということとを忘れないようにするのが、今の私達に必要なのかもしれない。

## 水の大切さ

和歌山信愛中学校 二年 秋月 智尋 あきづき ちひろ

私たち日本人にとって一番身近で一番なくてはならないもの。それは水ではないでしょうか。私は水がどのようなところに使われているのかを考えてみました。

すると、手を洗うとき、お風呂に入るとき、食事に使うときなど、普段当たり前のように行なっていることのほとんどが水がなくてはできないことばかり。さらに、水は人の命を助けるものでもあります。たとえば火事のととき、大量の水を使って火を消し、人々を安心させてくれます。このように、私たちは水が無くては生きていけないのです。

さて、どうして最初にわざわざ、「私たちにとって」ではなく、私たちが日本人にとって」と書いたのか分かりますか。それは、外国人にとっては水が当たり前のように身近にあるわけではないからです。

世界では、一部を除いたアジア、アフリカ全域、南米諸国を中心とする世界三十ヶ国、十一億人の人が水不足で困っています。さらに、一九九七年に、世界の約三分の一は水不足という状況下であり、二〇二五年には世界の人口の半分以上の二が水不足という状況になるだろうと警告しているそうです。

現在、世界の半数の人が下水処理などした水、環境衛生用水を適切に確保できていません。下水処理などが行われていないと、汚染された水源を使用する人々の間に死をもたらし、悲しいことに、汚染された水などで病気になるのは、抵抗力がまだ弱い児童がほとんど。したがって、開発途上

国では、汚染された水を飲んで、一日約四九〇〇人、年間約一八〇万人の児童が亡くなっているそうです。

私は今まで水はほぼ無限にあるものだと思っていました。理由は人類初めての宇宙飛行士「ユーリイ・ガガーリン」の「地球は青かった」のように、まっ青な地球には水がたくさんあると思っていたからです。しかし、調べてみると全然違いました。

人間が使える水、淡水は豊富になく、地球全体にある水の量の九十七・五〜九十八％は海水で、淡水はわずか二・五〜二・〇％しかありません。海水は塩分が含まれているため、そのままでは生活用水や農業用水に使えません。さらに、その二・五〜二・〇％の淡水のうち約七〇％が氷河で、残りの三〇％は地下水。そうになると、実際に使える淡水は地球全体にある水の量の〇・〇〇二％以下しかありません。そのわずかな淡水を七十一億人の人口でわけ合うのだから、水不足になるのも仕方ありません。

日本はとても水に恵まれています。ですが、水に恵まれているからこそ、私たちは水を大切に使うべきではないのでしょうか。たとえば、残り水を何かに使えないかな、と少しでも考えたり、水を使いすぎた、と反省し、次からは気を付けよう、と思うことも大切だと思います。一人一人が気を付ければ、今予想されていることも変わっていくかもしれません。

水を無駄に使わないように、捨てないように、よく考えて水を使っているかと思えます。

## 大切な資源「水」

近畿大学附属和歌山中学校

二年

東 あずま  
茉那美 まなみ

私の家には、深さ十五メートルの井戸があります。この井戸が、私の先祖や祖母の暮らしを支え、後世に命を残してきました。

昭和三十年の冬、祖母は高校生でした。この頃、渇水期で近所にある井戸という井戸が水不足になってしまいました。そこで、家にも井戸を掘るということになったそうです。

昔、渇水期になると、生活に必要な水を十分に確保することが困難な時代だったと言うことです。十分な水が得られないと、煮炊きすることができません。でも、それ以上に困ることがあります。田畑に水が引けないことです。田んぼに水が引けないと、稲が育ちません。畑に水が無ければ作物が育ちません。そうになると、人が食べるものが無くなってしまいます。

私や母の生まれた時代には水道が整備されていて、蛇口をひねるといつでも使いたいだけ水を使うことが出来ます。祖母の話も聞いても、水が十分に無かった時代のことや、農家の人々の苦労を、想像することが出来ません。

近年、日本でも夏になると「水不足」という言葉をニュースで耳にするようになりました。

昔の人々が、子孫である私たちが水で困らないよう、大切に守り、残してきてくれた水。しかし、この水が今、危機にひんしているように感じています。

雨水を貯めておくために必要な天然のダムである森林。その森林の木々

を、私たちの生活を豊かにするために無計画に伐採を繰り返した結果、荒れた山となり、水を蓄えておくことが出来なくなっています。その為、山は異常気象による豪雨の影響で土砂災害を引き起こし、河川は氾濫を起こすことが多くなっています。水を守るといことは、地球環境を守ることでもあるのだと私は思います。

私が住んでいる地区には、昔九つの井戸があったそうです。でも、現在使用している井戸は私の家を含め、三か所になっています。

井戸は使っていないと、水が涸れてしまい使えなくなるそうです。

しかし、もし災害が起こったときはどうでしょうか。近いうちに起こると言われている南海トラフ地震。その時、水道水が使用できずに飲み水に困る時がやってくると私は思います。その時、井戸水を利用することが出来れば、命を守ることにつながるように思います。

昔の人々が私たちに残してくれた井戸。その井戸を私たちも後世に残していかなければならないと私は思います。

限りある地下資源と言うと、私を含めほとんどの人が石油や石炭、天然ガス等を思い浮かべると思います。しかし、地下水も限りある地下資源であるということを忘れてはいけないと思います。

普段何気なく使用している水。しかし、私たちが生きていくうえで、必要不可欠な水でもあるのです。水に不自由を感じることなく育ってきた私たちは、水の大切さについて考え、無駄遣いしないよう一人一人が心がけていくことが大切だと思います。

## 水不足と仮想水

和歌山県立向陽中学校 二年 井口 遼平 いぐち りょうへい

僕は野球部に入っています。もちろん、夏も練習があるわけで、土曜と日曜は、毎週練習に行っていました。そんなある日のことでした。学校に着いてから水筒を家に忘れたことに気がついたのです。取りに行こうにも、家までは電車で三十分の距離です。取りに帰ってしまうと練習が始まってしまいます。だから、この日はなんとかガマンして乗りきろうと思いましたが。しかし、練習が始まり十分もすると、滝のように汗が流れ出し、喉がカラカラにかわいてきました。しばらくしてやっと休憩になりました。しかし、僕は飲み物を持っていません。しかたなく、チームメイトにお茶を分けてもらいましたが、人の物なので、そうゴクゴクとたくさん飲むわけにはいかないのです、少ししか飲みませんでした。その後もこんな調子が続き、やっと練習が終わりました。僕は真っ先にウォーターサーバーにかきこみました。そこで飲んだ水がとてもおいしかったことを覚えています。そんなことを忘れそうになっていたまたある日のこと、学校の環境の時間に「水」のことについて調べることになりました。そこで、世界の約七億人が、水不足の状況で生活していて、不衛生な水しか得られないために毎日四九〇〇人も子どもたちが亡くなっているそうです。これにはとても驚きました。以前から水不足が世界のどこかで起こっているというのを知っていましたが、これまでの規模で進行しているとは思っていなかったからです。また、驚きとともに、先日の水筒を忘れてしまった練習を思い

出しました。これほどの苦しいことが、世界の七億人で起こっているなんて、考えられませんでした。あの時は、ただ苦しかっただけだったけど、今となっては深刻な水問題に対する考えを深められたいい機会だと思えました。

何か僕たちにできる対策はないのだろうか。」そう考えて、さらに調べ続けると、「仮想水」というものを見つけました。仮想水とは、農産物や畜産物の生産に要した水を、輸出入で間接的に消費することだそうです。輸入大国である日本は当然、仮想水を大量に輸入することになります。日本が輸入している大豆や小麦は百億トン、牛肉は百五十億トンの仮想水を輸入しているのと同じだそうです。つまり、外国の水を日本がほとんど奪っているのと同じことです。日本の輸入品に使われている仮想水は全部で約八百トンで日本の水消費量は全部で約八百三十トンです。なんと、ほとんど同じ量の水を消費していることになりました。普段通りの生活をしているつもりでも、発展途上国の水を奪っていることになるとは思ってもいませんでした。そこで僕はふと思いつきました。裏をかえせば外国産の食べ物を買わなければ、外国の水不足の進行をとめることができるということです。これは、外国に行って井戸をほったり、水道を作ったりするような難しいことではなくて、僕らにもできる、水不足への対策ではないでしょうか。

僕は今回、この体験を通して、水の大切さを学ぶことができました。有名なことですが、地球上の水は九八パーセントが海水で、残りの二パーセントが淡水です。しかし、その大部分が氷山などで、僕たちが使える淡水は全体の〇・〇一パーセントにも満たないのです。水がなくなると僕たちは死んでしまいます。だから、この〇・〇一パーセントの水をいかに大切に、いかに分け合っていくかをもう一度考え直すべきではないのでしょうか。

## 水との共生

和歌山県立向陽中学校 二年 川端 佑衣里  
かわばた ゆいり

以前、私は「浄水場のしくみ」について学習しました。浄水場では、近くにある川の水を何回も何回も、とても大きな装置を使ってきれいにしています。そして、普段使っている水がこのような手間をかけて私たちに流されてきていることを知り、水を大切にすることの重要さを学びました。また、私たちの使っているこの水は、川の水だけではないそうです。雨水も同じように、浄水され使われていました。私はあまり雨が好きではありませんが、こう考えると雨にも感謝しないとイケないなと思いました。こう考えたのは、浄水場について学習したからという理由だけではありません。私の住んでいる地区は畑や田んぼが多くあります。その田んぼで私は田植え体験をさせてもらった経験があります。そのときに田んぼのおじさんが「水をはるのがとても大変。雨が降ると嬉しい。」と言っていました。こういったことから、私は雨についての考えが少し変わりました。

私たちは雨水を浄水したり田んぼの水の足しとして利用しているということがいろいろな体験から分かりましたが、世界では浄水していない雨水で料理をしている国があるそうです。そういった国に嫁いだ日本人女性を取材したテレビ番組がありました。その女性は雨水を飲んで「最初の方はお腹を壊した。」と言っていました。このように雨水にデメリットがあるのも確かです。二〇一一年に起こった紀伊半島をおそった水害も雨によるものでした。土砂くずれがおきたり、大きな川がはらんしたり、たいへんな被害が出ました。そしてこの災害では死者もたくさん出ました。雨水が

もとなってたくさんの方が亡くなられたのです。雨水を飲んでお腹を壊すというのは浄水して解決したり、現地の人のように慣れれば抗体が出来てお腹を壊さなくなったりと解決策はあります。では、雨による災害の対策方法はないのでしょうか。

昨年の夏に私は「緑のダムのしくみ」について実験しました。それは、緑のダムの大半の役割を担っているのは木なのか、土なのかということ調べる実験です。緑のダムの模型を使って土だけのときと木だけのときと両方あるとき「緑のダムと呼ばれる形」とを比べる対照実験を行った結果、木が緑のダムの約三分の二を担っているということが分かりました。このことから、紀伊半島をおそった災害ももっとたくさんの方があれば少しは規模が小さくなったのではないかと思いました。例えば、土砂くずれは木の根によって、多少おさえられると思います。だから、私はこの実験から木を増やすことが大切なのではないかと思いました。つい先日遠足で孟子ピオトープに行きました。そのとき、施設の先生が「木を切ることも大切だ。」と言っていました。なぜなら、木を切ることによって新しい芽が出たり、根がさらに強くなるからです。木を増やし、木を切り、それを人間が活用すれば私たちにとても自然にとっても良いことだと思えます。

このように水は私たちに災害を与えることがあります。それはときに人を殺してしまうこともあります。でも、私たちは水がないと生きていけません。だから、水を大切にしなければならぬし、そういった水の災害にも負けない対策をしなければいけません。

私はまだ中学生なので、たくさんのお木を植えて程よく木を切り、森や林を活性化させるということはできません。でも、日頃から水を大切にすることはできます。よく言われている「歯を磨いている間は水をとめる」や「残り湯を洗濯に使う」ということや、それ以外にも、ふと気づいたことから実践していきたいです。私たち人間が努力して、これからはずっと水と共生できる世界にしたいと思えます。

一滴を守れる世界に

和歌山県立向陽中学校 二年 後藤 詩子

ごとう うたこ

ジャーッ。蛇口をひねると勢いよくほとぼしる水。今日みたいに暑い日は、こーやって手をキンキンにぬらすのが一番、などと思いつながら雑巾を洗う手をとめてぼんやりする。水の無駄使い、という言葉が頭に浮かび、少し気になるけれど、この気持ちよさにはどうして太刀打ちできるわけもない。あっさりとした冷水の誘惑を断ち切れない日々の続いた、ある日のことだった。

朝食を食べながら新聞の気になる記事と二面の下にあるコラムを読むという日課を持つ私は、その日もいつもどおり、パンをもぐもぐさせながら朝刊に手を伸ばした。四コマ漫画もテレビ欄もさらっと目を通して通過、一面のコラムを読みはじめたとき、ある二文字の言葉が目にとまった。

水罰―？

「水罰」ってなんなんだろう……？そんな疑問を抱えたままコラムを読み進めていくと、後半で答えが明かされた。「水罰」というのは、水を無駄に使ったり、ぞんざいに扱ったりすると罰があたるという昔の人の考え方があらわれた言葉で、子どもをしつけるときなどによく使われたそう。

それなのになぜ、「水罰」という言葉は使われなくなってしまったのだろうか。実際に私もコラムを読むまで聞いたこともなければ使ったこともない、存在すら知らない言葉だった。

それはきつと、今と昔とで水に対する考え方ががらりと変わってしまったからだろう。昔は井戸水や川しか頼れるものはなく、雨が降らず日照り

が続けばすぐに干上がってしまうような水は、とても貴重なものだったに違いない。ところが今はどうだろう。蛇口をひねれば透明な水が当たり前のように出てくる。しばらく雨が降らなくてもダムがあり、水に困ることはそうそうないはずだ。あつて当たり前なものに誰が感謝するだろう？

水は大切なものだ」という考え方の影がうすくなるとともに、「水罰」という言葉もひっそりと姿を消してしまったのだ。

では、水は大切なものではないのかというと、そうではない。水がなければ人は生きていけないのだ。お風呂は入れないし、植物や家畜を育てることや、料理をつくること、のどをうるおすこともできない。私たちが一滴も水を使わずに一日を過ごすということは不可能なのだ。

二〇二五年には世界中の人口の四人に三人が水不足に苦しめられるのではないかといわれている今、私たちに必要とされるのは、水は貴重なものである」ということを忘れず常に心にとめておくことではないか。水はあるのが当たり前で、無限にあるものではなく、限りのある貴重なものとして大切に扱うべきだろう。

ジャーッ。蛇口から噴き出した水が、たふたとバケツを満たしていく。あれ、今日はバケツを使うんだ、と同じそうじの班の友達にきかれ、うんまあね、一人ずつ水道で雑巾を洗うより、こっちの方が水を使わないでいいし、と返す。キュッ。蛇口をしめるともう水は一滴も出てこない。今日は水を出しっぱなしにして手を冷やしたりなんかしないからね、と水で満たされたバケツに手をひたす。ほら、これだけでも十分涼しいじゃん。嬉しくなって手を水中でパタパタさせると、はねた水がちやぽんと小さな音をたてた。まるで、水も笑ってくれているみたいだった。

## 命をつなぐ水

和歌山県立向陽中学校 二年 高橋 悠泉  
たかはし ゆい

百の診療所より一本の用水路を」  
 これは、アフガニスタンで水路事業をしてきた医師の中村哲さんの言葉です。

私は小学生のころに一度、中村さんの講演会へ行ったことがあります。その講演会をふり返ってみると、水がどれだけ大切かについて深く考えさせられました。

アフガニスタンにはダラエヌールという大渓谷があり、春先に激しい雪解け水が押し寄せてくるそうです。水は年間を通じて途切れなく流れ、多くの人口をようしてきました。しかし、二〇〇〇年には降雨、降雪がほとんど見られず、主食である冬小麦の収穫は大打撃を受けました。中村さんは初め、医師としてアフガニスタンへ行ったそうですが、命を守り、救うはずの医療人もこの大干ばつによる深刻な飢餓と渇水には太刀打ちができなかったそうです。大干ばつによる多くの病気は十分な食糧と清潔な飲み水さえあればかからぬものでした。このことがきっかけで中村さんは百の診療所より一本の用水路を」を合言葉に水路事業を始めていきます。

百の診療所より一本の用水路を」この言葉から、人が生命の維持をするためにどれだけ水が大切かがわかります。水は何にもかえがたいものです。私たちの生活の中では、蛇口をひねればすぐに水が手に入ります。今まで、それが当たり前とでも言うように蛇口をひねってきました。しかし、私たちの当たり前という考えが、水に対するありがたいと思う気持ちをか

くしてしまっているように感じます。水があるというのが当たり前の生活に慣れてしまい、水の大切さが見えなくなってしまっているのです。

私は、昨年の夏休みに、いろいろな液体で植物を育てる実験を行いました。結果は、やはり水が一番よく育ちました。他の液体ではあまり成長しませんでした。また、何もあたえなかったものも育ちませんでした。この実験で、水が生命と密接に関わっていることを形で見ることができました。人も水に支えられて生きています。水は人にとって必要不可欠なものなのです。

しかし、今、人は自らの手でその関係をこわしてしまっているのではないのでしょうか。水質汚染が原因で、今、世界中で利用できる水が減ってきていると言われています。水が不足してしまうと今までの当たり前の生活ができなくなってしまいかもしれません。

しかし、私たちが知らず知らずのうちに水質汚染の進行を手伝ってしまっているのは事実です。食品などをそのまま水に流すのも水質汚染につながります。

水質汚染を防ぐには、一人一人の心がけが必要です。私の家では、お米のとき汁をためて、花の水やりなどに使用しています。花にもとても良い栄養になり、一石二鳥です。また、油ものを食べた後のお皿は一度紙でふきとってから水洗いをしています。このように、小さいことでも一人一人が心がけて行動すれば、必ず良い方向へと向かって行くと思います。

今、水不足で困っている人がいること、今の生活ができているありがたさを、常に心に置いておかなければなりません。人は水がなければ生きていけません。だから、人の命を守って行くためにも、人と水との関係を保ち続ける必要があります。

## “自然”という名のエンジン

和歌山県立向陽中学校 二年

ながた しおり  
長田 糸織

私は小さい頃、なんで噴水の水は増えていかなんだらう」と疑問に思ったことがあります。後で両親に聞くと、それは、ふき出た水が下に落ちて、エンジンによってまたふき出ているんだよ」と教えてくれました。このとき私は、噴水の水は 回っている」んだなと思いました。

地球の水も噴水に似ていると思います。地球の水だって、循環して回っているからです。雨が降って、川の水になって流れていき、海にたどり着き、ふたたび蒸発して雨になる。でも、噴水とちがう所があります。それは、汚れた水も川に流れて海にたどり着く、という所です。生活排水や工場排水などです。そしてその汚れた水が川に流れると、水が飲めなくなるし、川や海に住む魚が死んでしまいます。雨は蒸留した水だからほこりなどが含まれる前はきれい、と調べたらかいていましたが、汚れた水が川に流れるということは、噴水のように少しは汚れているかもしれない（きれいなまま回っているというわけではないので、私たち人間は、水の循環を妨げているのではないか、と思います）。

川や海が汚れる原因に たばこのポイ捨て」というものもあります。私は昨年の夏休みに、ミミズを使ったニョチン実験というのをしました。だいたい、たばこの恐しさを感じるために行われる実験ですが、私は、たばこのポイ捨てがどれだけ川や海に住む生物に影響を与えるのか、ということとを重視して行いました。実験を開始してすぐ、たばこを多く溶かした水に入れたミミズから次々と死んでしまいました。たばこがどれだけ水を汚

すのかがよくわかりました。このことから私は、川や海にたばこのポイ捨てをしない」というのも、水の循環を妨げないための一つの方法だと思います。また、その他のごみでも、川や海に捨ててしまうと水が汚れてしまいます。なので、大人だけでなく私たちのような子ども、ポイ捨ては絶対にしてはいけないと思います。

そしてもう一つの原因が、よく知られている生活排水や工場排水などです。水を汚さないためにできることは、洗剤を使わずに、皿についた油をふきとってから洗う、という事です。でも、子どもにはどうすることもできないのが工場排水。母に工場排水について聞くと、水俣病のことを教えてくれました。工場排水の中に含まれた水銀が海水を汚染して、そこに住んでいた魚を人間が食べて発生したと言っていました。人間がしたことで人間が病気になってしまうなんて恐ろしいです。それから最近だと、東日本震災での原発事故による放射性物質の拡散。放射性物質によって海洋汚染され、食べたら死んでしまうような汚染魚がかなり出たといえます。これは津波のせいでもありますが、海という水とおしてこんなに被害が出たのは悲しいです。水の循環の妨げだけでなく、生きることまでを妨げてしまったら、どうしようもない、と思いました。

このように、私たち人間が水の循環の妨げとなるようなことをたくさんしている、ということがわかりました。でも、それを防ぐ方法もわかりました。ポイ捨てしない、洗剤使わずに、油はふきとる。工場排水は海に流さない。地球の水を回している。自然”という名のエンジンの妨げをしないように、これからもできることはどんどんします。そしていつか、噴水のように、ずっときれいなまま回れますように。

## 奇跡の一滴

田辺市立新庄中学校 三年 濱本 法子

はまもと のりこ

やっと水道から水が出た。これは、いつも出てくるあの水でなく、久しぶりに出てきた感動と喜びの水だった。しかし、私にはあの時の恐怖をやっと安心させてくれた奇跡の水だと感じた。

あの日あの時こんなことが起こるなんて夢にも思わなかった。私は、茨城県のつくば市に住んで2年目で小学五年生のとき。五年生もそろそろ終わりに近付いた、ある金曜日の帰りの会で先生の話が始まり、今日あったことなんかを話していた、そんな時、ゆらゆらと長く大きな揺れがやってきた。始めは、小さな揺れだったのが突然大きくなった。

これが東日本大震災だった。ここは震度6弱で家に帰ると隣の人が、「ここは危ないよ一緒に走ろう。」

といて、駐車場まで連れていってくれた。車には、母がいて弟もいた。弟は、車の中で寝ていた。母は、私をぎゅとだきしめて、

よく、帰って来たね。」

やさしく声をかけてくれた。今、家の中は無惨な姿だと母が教えてくれた。

その晩、まだ余震が続く中、父が帰って来た。食べる物は、父と母が、余震がない間に家に入って取ってきてくれたから心配がなかった。ふとも同様に持ち出して、車に持ち込み寒い夜を明かした。晩がいつもより長く感じた。きっと、余震が怖かったからだと思う。

ゆっくりと朝がやってきた。トイレがあるのに水がない。弟は、トイレに行きたいと言うので土をほってそこにした。今から思うとよく出来たな、

と思う。記憶の中では、水がないと大変だったのがトイレ、その次が、食べる前の手洗いだ。一日だけでも、とてもたくさん水が必要だというところが実感させられたと思う。

今まで何気なく使っていた水がどれだけ大切だったかが、初めて感じられた。水が使えるのも名の知らぬ誰かが私たちのために水道というものを築いてくれたからだ。

時には災害や事故として、水は人々を襲う。しかし、昔から水に頼りながら生きてきたのが人間だ。水道を通じて、大自然の恵みが、人間社会のこんなにも身近なところで関わりを持っているのだということがわかった。奇跡の水は、そのことを教えてくれた一滴だった。

## 和歌川について考える

近畿大学附属和歌山中学校

二年

まつやま 松山

なおいこ 那央子

私の家のすぐ近くには和歌川終末処理場があります。和歌川の水は直接海に流れるのではなく、一旦ここでせき止められ、処理されているのです。しかし、つい最近まで終末処理場があることにさえ気がつきませんでした。何か大変そうな名前にそれがどのような役割をしているのか、それに守られている和歌川の状態はどうか気がなったので調べてみました。

和歌川終末処理場は、主に化学、染料工場の排水を浄化し、川に戻しています。難分解性成分や着色料を多く含むため、オゾン酸化による高度処理を行っているそうです。確かに川の両側には多くの工場が立ち並び、水はにごったりはしていませんが、コンクリートの岸のあちこちから排水が流れ込んでいます。

改めて川沿いを歩いてみて驚きました。あちこちで自転車やスコップ、毛布など普通、絶対に川に落ちるはずのないものが捨てられていたのです。しかも川全体からドブの臭いが少しですが漂っていました。水はにごり、岸辺は泥が深く積もっていて、こんなところに生き物がいるのだろうかと思ひ、近付きました。すると、その泥には三センチぐらいのかが何十匹もいました。さらにしばらく歩いていくと「羽ずつですがしぎと、その後にさぎや川うも見つけることができました。和歌川は何年か前からとどころに粗く石組みされた護岸が作られています。何のためにあるのか、どうしてとどころにしかないのかは分かりませんが、ここに生き物がないか近づいてみました。でも特に生き物は見当たらず、川が生きていないような気がしました。

まだ魚が生きていける環境ではないのだろうかと思ひながら帰っていると、川面から小魚がはねました。と思うと近くで同じように数回魚がはねました。よく見ると、ほんの数センチほどのすんで見える水に本当に小さな魚たちが泳いでいました。このようすを見て私は、汚れたきたない水の川だと思っていたけれど、ちゃんと生き物たちの命を育んでいるのだとうれしく思いました。

帰ってから調べると、あの石組みされた護岸は作られた理由はいくつかありますが、特に環境に配りよして、垂直のコンクリートの岸から生き物たちの住み家になるように老朽化したところから順に作り変えられたそうです。また、驚いたのは終末処理場で浄化された水はそのまま海に流されるのでなく逆流させ、市内の川を浄化させながら紀の川へ流しているそうです。潮の干満で水が逆に流れているのだと思っていた川は、ポンプで人工的に逆に流されていたのです。

昔は河口でノリの養殖までされていた美しかった和歌川は水運に便利なことから大正時代から工場が立ち並び、その排水で水はどんどん汚れました。昭和になってそれを止めようと石炭をつめた仮せきを作り汚水をあまり流れないようにしました。すると、そのせき止められた水が全国一といわれる汚水とへドロの川を作ってしまった。昭和四十年代から少しずつへドロを取り除き、五十年代に処理場を作り、最近はこの仮せきをとり壊しました。

私が汚いと思っていた和歌川の水は、さまざまな取り組みによって少しずつではあるけれどもきれいになってきつつあるのだなと実感しました。人間が長い時間のなかで汚していった水は、より長い時間をかけないときれいな水には戻らないのです。きれいな状態を保つにはもっと努力が必要なのだと思ひました。

いつか美しい水が自然に流れ、生き物たちが気持ちよく過ごせる川になるよう私達一人一人がしっかり考えて行動していきます。

## 同じものでも違う価値

紀美野町立美里中学校 二年 森下 真悠子  
もりした まゆこ

私達の生活の中で、水は絶対に欠かせないものだ。ご飯を作る時や、お風呂に入る時など、水は様々な場面で活用され、私達の生活が成り立っている。では、もし身の回りに水が無ければ、私達の生活はどうなるのだろうか。私達の暮らしとは正反対の、ケニアという国に着目して考えてみた。

まず、何故ケニアを選んだのかというと、この間見ていたテレビで、偶然ケニアの人々の生活が放映されていたからだ。私はケニアと言う国のことをあまりよく知らなかったので、現状を見てとても驚いた。まず、電気が学校にしかきていないという点で、この国の不自由さを知った。そして何より驚いたのは、ケニアの人々が使っている水についてだ。

ケニアの人々は毎朝まず、一日で使う水を汲みに行く。その距離は大体1キロで、往復2時間をかけて、水を運ぶ。10リットルもの水が入ったボトルを片手ずつにさげ、裸足で水を運ぶのだ。それは、大人も子供もみんな必ずする事らしい。そしてその水は、ご飯用に使ったり、手を洗うのに使ったりするそうだ。

でも、この水は決してきれいなものではない。それは、地面の大きくへこんだ所に溜まった雨水だからだ。溜まった雨水には、泥や砂が沢山混じり濁っている。さらにその水溜まりには、牛なども水を飲みにくるので、私からしてみると、こんな水を飲むなんてことは到底考えられなかった。でも、ケニアの人々は汚れているのなんかお構いなしに、自分達の生活の中でその水を使うので、小さい子供やたまには大人までも、お腹をこわし

て下痢をしてしまったり、病気になったりする。日本なら、近くに病院も沢山あって、病気になっても、治療を受けたり薬をもらったりして、治すことができる。でもケニアは全く違い、医療があまり発達していないので、病気をそのままにして、過ごす事のほうが多いらしい。

最近では、入れるだけで水がきれいになる薬や、井戸などができていると、ニュースで見ることがある。でもまだケニアのように、きれいな水がお腹いっぱい飲めない国はたくさんあるだろう。そう考えていると、自分の生活の中で水を無駄にして使っている事が、何だか申し分けなく思えた。たとえ私が身近の水を大切にしたらとしても、ケニアの人々の生活はこれっぽっちも変わらないと思う。私達は

「あ、大切にしなければ。」  
 「と思いつながら水を使うことしかできないのだ。しかし、それならその気持ちだけでも大切にして、これからも生活を送っていけばいいのではないかと、私は思う。」

世界中の誰もが、豊かな水と暮らしていける方法は、きっとどこかにあると思う。だからそれを見付けられるように、生活の中でも考えていこうと、私は思う。

## 水のありがたさを感じて

和歌山県立田辺中学校

二年

井口 いぐち絢可里 あかり

私たちは、毎日あたり前のように「水」を飲んでいる。しかし、世界にはそれがあたり前ではない人たちがいることを知っているだろうか。

マラウイのムジカウオラ村に新しく井戸が掘られることが決まってから、サラという少女の生活は大きく変わった。井戸が出来るまでは、サラの村の人たちは毎日片道一時間をかけて、川まできれいな水をくみに行かなければならなかった。井戸が出来るまでいろいろな病気に苦しめられたわ。遠くの川まで大きな水がめをかかえて行くのでへとへとになり、おまけにその水の質はとても悪かったの。」とサラは言う。水くみのために毎日川まで通う必要がなくなり、村の人たちはその代わりに畑で働く時間を持てるようになった。畑でいろいろな作物を育て、野菜をたくさん食べて、家族の健康状態がよくなった。余った作物は市場で売り、ほかの農作物と交換する。サラはこう話している。たったひとつの井戸のおかげで清潔な水を飲むことができるようになりました。井戸は私たちに心の安らぎや豊かな生活をもたらしてくれたの。」

水分が不足すると、まず体内の水分から失われていく。人間の体の五十パーセントから六十パーセントが、水分で構成されていると言う。肝臓の約七十パーセント、筋肉や心臓、脳、腎臓は約八十パーセントが水分で、筋肉は骨格筋重量の約八十パーセントが水で、脂肪の場合だと脂肪組織重量の約五十パーセントが水分であると言われている。この数値からも分かるように、私たちは水がないと生きていくことが出来ないのだ。

蛇口をひねるときれいな水が出てきて、お店や自動販売機ではきれいな飲み水を買う事が出来る。もし、それが出来なくなった時。サラの様に、毎日水くみにたくさんの時間をかけて、質が悪い水を飲んで、生活しなければならなくなった時。私たちは、どう過ごしていくのだろうか。生活していきけるのだろうか。

そんな事にならないように、日頃から水のありがたさを感じて、水を大切にしていかなければならない。「水を出しつばなしにしない」お風呂の残り湯を洗たくする時に使う「うがいをする時はコップを使う」小さなこともかもしれないが、積み重なるとすごく大きなことになる。私自身、家庭でも、少し前から実践している。すると、水道使用量が大きく変化していたのだ。おどろく事に、これまでと比べて、約十パーセントもの使用量を減らすことが出来ていたのだ。少しの心がけで、こんなにも変化を起こすことが出来る。

水は、私たちの身近に存在し、水を飲んだり、食べ物を食べる前に水で洗ったり、洗濯やお風呂、トイレなど、様々な面で水と関わっている。私たちは、水を使うことがあたり前すぎて、水の大切さに気付かなかったのだ。水のありがたさを感じ、日々、水を大切に、過ごさなければならぬ。

## 水のありがたさ

那智勝浦町立宇久井中学校 二年

川上 かわかみ

朱璃 しゆり

約二年前、台風十二号が私達の町をおそった。

「ザーザーザーゴロゴロゴロー」

と雨と雷の音がいつもより大きく感じた。

「ゴーゴービュービュー」

川の流れる音、風の音もよく聞こえた。私はとてもこわくてその日は、あまり眠れなかった。

夜が明け、雨と雷の音はあまり聞こえなくなったため私と父と母とおばあちゃんを外に出ることにした。玄関を開けると、田んぼと畑と道は池のように水がたまっていた。辺りを見ていると私達が毎年使っていたトラクター、精米機などが飛ばされていた。そしてトラクター、精米機などを入れていた小屋も飛ばされていたし川の堤防も、くずれていた。私は背中がゾクツとした。私は

小屋が飛ばされてる。トラクターも飛ばされている。あれっ堤防も、こわれているやん」

と言った。おばあちゃんと母と父は小屋があった所を見て

「本当や。なんもないな。」

と言った。家に帰ると兄弟たちが起きていた。

「テレビつかんで。新しい仮面ライダー見たかったのにな。」

と弟が言った。その日の午前中は停電していたので朝食はフレンチトーストを食べ、停電が終わるまで、トランプで遊んだり、川の様子を見たりし

ていた。その日は、あまりいそがしくはなかった。

次の日、学校だった。私は山の方に住んでいたの、学校に行くのも帰るのも車で送りむかえをしてもらっていた。車で学校に行く途中、山や道を見ていると木がたくさんたおれていた。大きい岩や小さい石が道に、たくさんころがっていた。学校に着いて皆と遊んでいたら手が汚れたので手を洗いに行った。蛇口をひねると少ししか水は出てこなかった。それと給食。おにぎり2つぐらいと、たくあんと鮭だけだった。なぜ、これだけだったのかというと断水していたからだ。その日、水のありがたさがわかった。断水は1ヶ月前後で解消された。

この断水されていた1ヶ月の間、友人たちは水に困っていたらしい。幸い私の家は、水道じゃなくて山のきれいな水を飲んでいたので水に不自由することは一切なかった。けど友達の話を知っていると水がないと不便だなと思った。

私は、この台風を経験することで水のありがたさを学べた。

## 一人一人が意識する

和歌山県立向陽中学校 二年 川島 千鶴

かわしま ちづる

日本人がアフリカへ行き、井戸掘りの技術を伝える番組を見たことがある。この国は、上下水道などが整備されないまま、工業化が進んだり、村が大きくなったりしたそう。そのため、工場排水や生活排水が処理できないまま川に流れ、その水がそのまま生活に使われてしまっているのだ。これが原因で、病気になって死んでいる子どもが毎日約一万人いるそう。

水不足の理由の一つに、森の減少がある。なかでも大きく失われているのが、南アメリカ、東南アジア、アフリカ西部などの熱帯雨林である。そこで暮らす人々の生活のため、木はどんどん切られている。そして切り出した跡地を農地にするため木り株や草を焼いて焼畑農業を進めている。森の回復をまたずに、大規模で無計画な焼畑農業が行われているのだ。

そして、森がどんどん減るにつれ、砂漠は増えていった。養分の多い土が、風や雨によりけずられ、農作物が育たない土地になる。畑は、森のように植物でおおわれていないため、雨水は土に十分に浸透できず、土を流してしまう。

日本でも森の問題点がある。それは、森の質が下がってきているということだ。天然林を伐採し、スギやヒノキなどの人工林にかえ、生き物が少なくなった。そして、人がゴミを捨てたり、自動車からの排出ガスの影響があったりして、川や森が汚れ木も枯れていっている。このように、日本の森の生態系はくずれつつあり、森の質はどんどん低下し続けている。その原因の大半は、この四十〜五十年ほどで急激に変わった私たち人間の暮

らしにある。

しかし、森のおかげで私たちはきれいな水を使うことができている。森がきれいになると川の水もきれいになる。逆に言えば、森が汚れると川の水も汚れる。森と水は密接な関係がある。

森を守るためには、世界中の人、一人一人が、自然のサイクルやバランスを理解することだと私は考える。無やみ矢たらに森を切り開いて道を通したり、町をつくったりして、経済発展をしない。森の回復、自然のサイクルやバランスを考えて手を加える。便利さや楽さを求め、自然を破壊する前に、きちんと環境問題に目を向け、考えていくことが大切だ。

世界中の人々が自然のことについて意識ができるようになったらどうだろうか。世界中の森や熱帯雨林などが復活し、きれいな水を作ることができる。また、砂漠になってしまった土地にも、再び緑をとりもどすことができる。

今、大人たちがしている経済発展などを、私たちがこれから大人となりしていかなくてはならない。つまり、環境問題を解決していく当事者になるのだ。そのため、今からでも環境問題に目を向けておこうと思う。毎日の生活の中で、ちょっとした気を配ることでは山のようにある。世界中の人々が頭のすみでもいいから、環境問題をいつも思っておくと、よりよい世界になり暮らしやすくなる。

私は、「水の惑星」とも呼ばれる地球に住んでいる人が、水に困らないように、日ごろから心がけて小さいことからでも実践していきたい。

## 水とともに生きる

紀美野町立美里中学校 三年 岸本 きしもと 和佳 あいか

私たちの近くにはたくさん水があります。ミネラルウォーターや水道水などがあります。特に私たちが使うのは水道水だと思います。じゃ口をひねれば簡単に水が出てきます。私たちはその水で顔を洗ったり、手を洗ったり、お風呂に入ったりします。そのほかにも、植物を育てたり、料理に使ったりします。私たち人間や生き物は水がないと生きていけないのです。もし水がなくなってしまうたら水分がとれなくなって死んでしまうかもしれません。だから私は水と人間、生き物はつながっているのではないかと思います。私たちが今、生きていられるのも水のおかげなのかもしれません。

今、なにげなく使っている水を私たちは無駄にしていると思います。私は以前までシャワーの水を出しっぱなしにしてお風呂に入っていました。でもある日、テレビで水の特集を見たとき、きれいな水が使えない国があることを改めて知り、節水しなければいけないと思いました。それから私はシャワーの水を出しっぱなしにするのをやめました。こんな風にちょっとしたことで水の無駄を防ぐことができます。他にもお風呂の残り湯を洗たくのときに使うなど節水にはいろんな方法があります。

私の家ではじゃ口がゆるんでいることがあります。一滴ずつぽっん、ぽっんと落ちていくのを私は見て見ぬふりをしてしまいます。この出来事は学校でもよくあります。私は水一滴ぐらい大丈夫だとそのとき思いました。でもよくよく考えてみるとあの時、きちんとじゃ口をしめておけばよかつ

たと思いました。たった一滴だけでも何時間もほっておいたらコップ一杯分ぐらいの水が無駄になっていくのではないのかと思いました。こんなことがあらゆるところで起きていると考えたら何リットル、何十リットル、それ以上の水が無駄になっていると思います。だから私はこれから見て見ぬふりをせずきちんとじゃ口をしめようと決めました。水の無駄をなくすことによって世界が少しずつ変わっていくと私は思います。

人の心をリラックスさせてくれる水は私たち人間にとって大切な存在です。一人一人が節水を心がけ、水を無駄に使わないことが私たちが今、水に対してしていかなければならないことだと思います。そして一番大切なことは水に感謝することです。なぜこれが一番大切なのかという水がないと私たちは生きていけないからです。水のことを一から考えて知っていくことによって水の大切さが分かってくると思います。

## 水道と水

近畿大学附属和歌山中学校 三年

みなみ あおの  
南 碧乃

私は去年の夏に、ボーイスカウトで日本ジャンボリーという十日間のキャンプをしました。

私は今まで何度もキャンプをやったけれど、いつもすぐ近くに、水道がありました。食器を洗ったり、米を研いだりするのも、全部水道でやりまです。遠くても、二分くらい歩いたら水道があつて、そこで持ってきたポリタンクに水を入れます。確かにたった二分でも、ポリタンク一杯の水を入れて戻ってくるのはきついです。一人でもできる量だったし、ジャンボリーのときよりも、ずっと短い距離でした。

ジャンボリーには、日本中からたくさんの方が集まり、その年はアジア太平洋地域スカウトジャンボリーというのも重なって、外国の人もたくさん来ていました。なので、キャンプ地は広く、一応均等に水道を置いてくれていましたが、私たちがテントを建てた場所は一番近い水道まで普通に歩いて、十分ほどかかりました。その上で水を汲むので、とても大変でした。リヤカーにポリタンクと収納ケースを乗せられるだけ乗せて、行きはまだ水が入っていないので軽く、普通に行けますが、水を汲んでリヤカーに乗せるのは思ひので「苦労だったし、帰りにはでこぼこの道のせいで、収納ケースの隙間から水が漏れ出てきました。蓋を押さえて少しでも流れないようにと頑張ってもズボンがびしょぬれになるだけで、中身は半分くらいに減っていました。水がなくなると汲みに行かなければならないので、みんなでできるだけ節約するようにしました。

でも、もし水のあるところがここよりもっと遠くなったら、もっと大変になってただろうと思います。もし水道がなかったら、どこに汲みに行つてたんだろうな、と思いました。

ジャンボリーにはトイレもありましたが、簡易式のトイレで、水をときどき入れないと流せなくなるので、とても不便で、困りました。

こうした経験から、やっぱり水はなくてはならない存在だと実感させられました。ごはんを作ったり、飲んだりするための水が、近づくにならたら、あるいは水が消えてしまったら、と考えるのは、とても恐ろしいです。家では蛇口をひねったら一発で出てくる水ですが、もしも水道が整備されていなかったら、遠くまで汲みに行き、しかも汚い水をそのまま飲まなければならなくなっていたかもしれせん。病気になる人も増えたと思います。

だから、そうならないために、水を出しっぱなしにしない、使っていない間は水を止める、などして水を節約したり、油污れの食器はそのまま洗わず、一度油を拭き取ってから流すなど、水を汚さないように気を配るべきだと思います。

## 第36回「全日本中学生水の作文コンクール」概要

第38回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

### 1 応募要領

- ①テーマ・・・「水について考える」（題名は自由）
- ②対象・・・中学生（中学生と同じ年齢の方を含む。）
- ③原稿枚数・・・400字詰め原稿用紙4枚以内、日本語で表記された個人作品に限る。  
題名・学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入する。
- ④あて先・・・和歌山県庁 地域政策課  
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1  
TEL 073(441)2423
- ⑤募集期間・・・平成26年5月16日締切り
- ⑥版权等・・・○応募作文は自作の未発表のものに限る。  
○応募作品の著作権は、主催者に帰属する。  
○応募作文の返却は行わない。

### 2 応募状況

応募 学校数	応募 総数	学年別		
		1年	2年	3年
校	編	編	編	編
9	660	193	237	230

### 3 審査

応募作文660編を対象に、和歌山県審査において、優秀賞3編、入選10編佳作5編あわせて18編の入賞作文を決定。

（協力 和歌山市中学校国語教育研究会）

### 4 表彰

#### （1）賞および賞品

賞	賞品
優秀賞	賞状、図書カード
入選	賞状、図書カード
佳作	賞状、図書カード

#### （2）表彰式

優秀賞の受賞者を平成26年8月5日、和歌山県庁において表彰



# 水とめぐる 水のめぐみ

8/1は  
「水の日」

8/1▶7は「水の週間」

水はみんなの貴重な資源です。

健全な水循環により、水の恵みを楽しむ社会を目指して。  
本年、水循環基本法が制定され、8月1日は「水の日」と定められました。

水循環政策本部、国土交通省、都道府県、水の週間実行委員会

[水の日本の地図](#)

検索

2014年度は8/1「水の日」  
8/1-7「水の週間」